R5実施　乳幼児の発達支援の体制づくり
～発達障害の疑いのある乳幼児の早期支援について方策を検討～

大学

服巻 豊

広島大学
大学院人間社会科学研究科　教授

市担当課

×

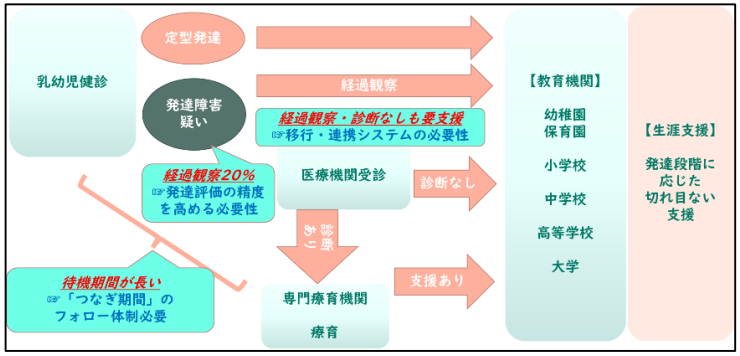
こども未来部
こども家庭課

1 課題

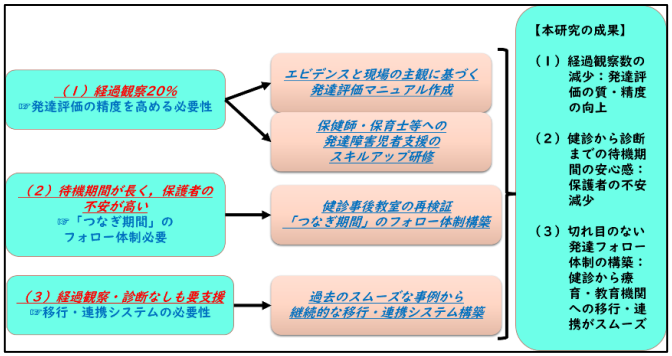
発達障害者支援では早期に発見し、支援するほど、その後の予後がよく、社会適応が促されやすい。また、早期発見支援の最前線である乳幼児健診では発達障害診断に専門的知識と技術を必要となり、発達評価の負担が大きい。そのため経過観察対応が多くなり，健診事後フォローにもつながらない母子が多数存在することが行政としての課題である。

2 概要

発達評価マニュアルの作成、現行の支援体制の検証、移行や連携に要素の抽出により、乳幼児の発達支援の体制を整備する。



▲本研究のための行政課題分析と解決モデル



▲研究成果による行政課題解決と社会実装化モデル

3 研究成果　データ取得・分析

①乳幼児健康診査での発達評価の実態把握と発達評価チェックリストを作成した。（有用性は要検討）
②健診で経過観察対象となっていた乳幼児とその保護者を対象としたフォローの場として、「2歳の日」を立ち上げ、親子遊びを中心としたプログラムを毎月実施した。発達相談のニーズの確認あるいは汲み取り、市の個別相談につなぐ体制も整え、実際に紹介に至ったケースも複数存在した。
③乳幼児健診における保健師の意識調査として、母子保健事業に関わる保健師に対して面接を行った。

4 今後の展望・現状　次の研究段階へ前進

引き続き、乳幼児の発達支援の体制づくりを目的として、発達障害の疑いのある乳幼児の早期支援について方策を検討する。（令和６年度COMMONプロジェクト「共同研究型」で継続研究中）